

授業改善書

科目名	音楽実技 I
担当者	山本・一村・影山・佐藤・須田・宮崎・安田

授業の概要

音楽の基礎技能についてのクラス授業とピアノの個人レッスンを 45 分ずつ 3 クラス × 2 組ずつ (6 クラス) 実施した。授業開始時の調査で学生の音楽経験に応じてクラスを A クラス (初心者) と B クラス (経験者) に分けたが、人数配当の関係で必ずしもぴったりとはいかないため、秋学期 (音楽実技 II) で A B の変更を行って調整する必要がある。

クラス授業は『保育者のためのピアノの基礎』(井口・笠井著、朝日出版社)に基づき、全調課題を中心に、ハンドサインやリズムのワーク、音名と階名を意識させる教材を用いた。ピアノの個人レッスンでは『おとなのためのピアノ教本』(ドレミ楽譜出版)を主として用い、経験のある学生には適宜より高度な教材を用いた。

授業の問題点

クラス授業では、ピアノ初心者もしくは音楽の苦手な学生に対して十分なケアを行っておらず、全体の進行を優先するために、個々のニーズに十分に対応できなかった。一人ひとりの学生とのコミュニケーションについても、授業内で質問できるよう配慮がなされていたとはいえない。単にピアノの経験の有無だけでなく、音楽の認知という点で一人ひとり多様な状況があるため、学生のリアルタイムの声を聞いて対応するなどの工夫が必要である。

学生の授業満足度

「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」について、3 限、4 限、5 限の 3 クラスのうち、3 限の回答が 4.14 (4.41)、4.11 (4.31) と最も低い結果となった。一方、4 限の回答は、4.67 (4.41)、4.42 (4.31)、5 限の回答は、4.55 (4.31)、4.45 (4.31) と、3 限に比べて高かった。

授業改善の課題と方策

4 限は、「出席や課題提出等はしましたか」では 4.79 (4.61)、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」では 4.79 (3.78)、「質問や発言をしましたか」では 4.29 (3.24)、「ノートやメモ等を取りましたか」では 4.29 (4.27) であり、そのことと満足度が関連していることがうかがえる。そのため、しっかりと授業外学習を定着させるとともに質問や発言、ノートやメモへの促しを行うなどの取り組みが必要である。

また、単にピアノの経験の有無だけでなく、音楽の認知という点で一人ひとり多様な状況があり、質問の促しを必ず行うとともに、45 分では時間的に難しいこともあり、フォームで毎回質問を受けアドバイスをを行うなど、学生の心理や悩み等にきめ細かく対応することが考えられる。

その他

「音楽実技 II」では再履修者が多くいると聞いている。そのことの方策が必要である。また、すでに「音楽実技 I」で欠席超過のために単位未修得者がおり、次年度に再履修者となる可能性があることから、来年度は極力再履修者を出さない取り組みが必要になってくると考えられる。